

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
7	川崎市立さくら小学校	橋本 祐二

学校教育目標	今年度の重点目標
さくらっ子の笑顔はNo.1 ～ちがいを生かし、共に育つ子の育成～ 【徳】心やさしい子 【知】進んで勉強する子 【体】明るく元気な子	○豊かな情操と感性の育成 ○よく見、よく聞き、よく考え、進んで学ぶ子の育成 ○健康をはぐくみ、安全に生活する子の育成

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 人権尊重教育	「自分を大切にする」「他者を思いやる心」の育成を図り、いじめを許さない学校風土づくりを進める。挨拶をはじめ言葉を大切にすることを指導を進め、よりよい友達関係づくりを図る。	職員研修を実施するとともに、効果測定やアンケートの実施等によって、いじめの早期発見、早期解決に努めた。エクササイズを通して、友達との関わり方を学ぶ姿が見られた。	日常の観察やアンケート等により、いじめの早期発見、早期解決の取り組みを進め、いじめを許さない学校風土づくりを推進する。あいさつ運動、交流活動などを通してよりよい友だち関係をつくる。
2 児童指導・児童理解	子ども一人ひとりの状況を把握し、児童や保護者が話しやすいような環境づくりを進める。望ましい人間関係づくりを目指し、協力して指導にあたる。さくら分教室との交流を図る。	児童、保護者の思いや願い、希望などをしっかりとらえたうえで、児童指導、保護者対応ができるよう、職員間で共通理解を図った。家庭との連携に心掛け、事故、トラブル等の速やかな連絡、家庭からの相談への誠実な対応を行ってきた。4年生との交流、共同学習に加え、各交流学年や学級における日常的な交流を通じて児童が心を通わせる機会を設けることができた。	支援教育COを中心に情報交換を密にして、子どもたちの状況を適切に把握し、組織として取り組み、保護者との連携を図る。経験の浅い教員が増えているので、児童の見取り方や理解の仕方について伝えていく必要がある。さくら小の校外学習の分教室児童の参加については、分教室の児童の実態に応じて参加の有無や行程の工夫など配慮を行っていく。
3 特別支援教育	特別な支援を必要とする児童一人ひとりの教育的ニーズに応え、きめ細かく指導する。個を大切に指導の充実を努めるとともに、個別に指導・支援が必要な児童を教職員全体で支える。	特別な支援を必要とする児童の掘り起こしと、指導についての相談をCOが中心となり行なった。教育サポーターを積極的に取り入れ、一人ひとりへの教育的ニーズへの対応ができるように努めた。	支援教育COを中心とした支援体制を充実し、全職員が情報共有して、支援に当たれるようにする。学生サポート、特別支援サポートなどの人材の確保や保護者への本校の特別支援の周知を行う。
4 学習指導	基礎的・基本的な知識・技能を習得するための授業時数の確保、思考力の向上を目指して、教材の工夫や学習活動の工夫を行う。確かな学力をつけるための研究・研修に取り組む。	基礎・基本の充実を図るために、朝のチャレンジタイムや昼学習で、繰り返しの計算や漢字練習を行った。わかる授業を目指して教材研究を行った。	子どもたちの思考力や教員の授業力を高めるため、学年内や教科部会などで情報交換を積極的に行う。GIGA端末の活用などにより、個別最適な学びも推進していく。
5 防災・安全指導	防災訓練の実施、防災教育の推進等により、児童の防災意識を高める。校舎内外の環境整備に努め、気持ちのよい学習環境づくりを進める。	避難訓練には、児童も真剣に取り組む、避難する時間も短縮されている。不審者対応訓練、研修を行った。	防災教育を継続して行い、児童の防災意識を高めるとともに、身を守るための判断、行動ができる避難訓練、防災学習等を通して学べるようにしていく。
6 地域連携	地域の教育力を生かした体験的な学習を進める。学校教育推進会議の開催、学校公開日の設定、学校施設の有効活用等により、地域に開かれた学校づくりを推進する。	ふれあい館等と協力しながら地域の教育力を生かして体験学習ができた。地域交通安全員さん等の協力により登下校の安全確保に向けた取組を進めることができた。	次年度も、地域の教育力を生かした学習を実施する。講師の方々や学習のねらい等をしっかりと共有し、さらに学習の効果を高めていきたい。
7 情報公開	学校・学年だより、給食・ほけんだよりの発行、ホームページの活用等により、地域の人々や保護者への情報発信を進める。	学校・学年、給食・ほけんだよりの発行を通して、学校の取組や児童の様子を伝えることで、学校教育への理解を得られるように努めることができた。	保護者や地域の方々の理解を図りながら情報提供を充実させる。保護者会や学校説明会は、より多くの家庭に参加してもらえるように工夫していく必要がある。
8 国際教室	国際教室と学級担任や日本語指導との連携を図りながら、児童一人ひとりが自分にあったペースで学習できるように努める。	児童の個々のニーズにあった指導計画を立てることにより、一人ひとりの意欲を高めることができた。限られた時間数で複数の児童の指導を行わなければならなかった。	担当者との情報交換と協力、初期支援員や担任との連絡調整を密に行っていく。研修を行い、学校全体での児童理解を深めていくことを継続していく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが学校が楽しいと思えるかは、先生が楽しく仕事ができているかに関わっている。 学校は子どもたちが成功するように指導はしているが、子どもたちが「失敗すること」を恐れず、チャレンジすることができるように教えてほしい。 先生方の子どもたちへの指導がとても丁寧で安心できる。それがアンケートにも出ている。 学校の掲示物がいつも素晴らしい。目に入りやすい。 良い学校で、一人ひとりを見ようとしてくれている。 	各教科の確かな学力の定着、学習活動の充実とともに、豊かな人間性の育成を目指して、学校・保護者・地域社会が一体となって取り組むことが大切である。学年の協力体制のもと、担任が一人で悩まず、学年や級外職員を含めたチームで考え、対応することが定着してきている。通常級内での支援の必要な子に対して、取り出し支援や入り込み支援を行い、一定の成果は見られたが、個別対応児童が増えているため、人員を確保する必要がある。人権尊重教育の充実、さくら学級・国際教室とのかわり、たてわり活動の推進等により、多様性を認め、協働する態度の育成に努めていく。図工の校内研では、子どもたちの思いを引き出すための支援や、つくりだす喜びを感じられるような研究を進めることができた。子どもたちが安心・安全に過ごせるように共通理解を図りながら活動に取り組みたい。